

改訂版

味噌川ダム水源地域ビジョン

木曽川源流の里ビジョンの概要



平成28年3月

NPO法人 木曽川・水の始発駅

独立行政法人 水資源機構 味噌川ダム管理所

まえがき

平成8年に味噌川ダムが完成後、ダムを活かし水源地域を活性化するための「水源地域ビジョン」について、平成13年から地元自治体である木祖村、地元住民、国土交通省をはじめとする関係行政機関及びダム事業者・管理者である水資源開発公団（現 独立行政水資源機構）により「木曽川源流の里ビジョン検討会」を組織し、地域活性化の検討を進めてまいりました。

「木曽川源流の里ビジョン検討会」では、源流の里「木祖村」の魅力や地域活性化のための具体的な取り組み等について議論を重ね、平成14年3月味噌川ダムの水源地域ビジョンとして「木曽川源流の里ビジョン」を策定しました。

当初、ビジョンを推進する組織として木祖村を事務局とし、地域住民、地元団体、関係行政機関を含めた「木曽川・水の始発駅フォーラム」を立ち上げ、「木曽川源流の里ビジョン」に基づき、河川清掃活動、木曽川の源流「鉢盛山登山」、奥木曽湖でのカヌー体験、食品開発などの活動を進めてまいりました。

さらに平成22年には行政主導ではなく、地域住民が主体で「木曽川源流の里ビジョン」を推進する組織が必要と考え、「木曽川・水の始発駅フォーラム」を発展的に解散し、新たに「NPO法人 木曽川・水の始発駅」を設立し、現在、地域活性化に向け積極的に新規事業を取り入れながら、様々な活動を進めております。

本誌は、「木曽川源流の里ビジョン検討会」が味噌川ダムの水源地域ビジョンについてまとめ、平成14年3月に発刊した「木曽川源流の里ビジョンの概要」に、現在、ビジョン活動の中心となっている「NPO法人 木曽川・水の始発駅」が第5章（推進体制）を修正し、第6章（事業紹介）を追記して改訂版として作成したものです。

木曽川源流の里ビジョンの概要

目 次

第1章 木曽川源流の里ビジョンの考え方	1
1 水源地域ビジョン策定の背景	1
2 水源地域ビジョンの概要	1
3 木曽川源流の里ビジョン策定の目的	3
4 木曽川源流の里ビジョンの策定方法	4
第2章 水源地域の現状と課題	7
1 木祖村の現状	7
2 水源地域活性化に向けた課題	11
第3章 木曽川源流の里ビジョンの基本方針と取り組みの方向性	12
第4章 活性化方策	15
1 遊木民プロジェクト	15
2 四季の彩プロジェクト	17
3 源流の里 体験・学びプロジェクト	19
4 食の塩梅プロジェクト	21
第5章 推進体制	22
第6章 事業紹介	24

第1章 木曽川源流の里ビジョン の考え方

水源地域ビジョン策定の背景、概要及び味噌川ダムにおける水源地域ビジョン「木曽川源流の里ビジョン」の目的は以下の通りです。

1 水源地域ビジョン策定の背景

21世紀のダム事業・ダム管理においては、従来からダムに求められていた治水、利水だけでなく、水源地域の自立的、持続的な活性化を図り、水源涵養など水循環に果たす水源地域の機能を維持するとともに、水や緑の豊かな自然や伝統的な文化を国民が広く利用できるよう、ハード、ソフト両面の総合的な整備を実施し、バランスのとれた流域の発展を図ることが期待されています。

このため、国土交通省では、直轄ダム、水資源開発公団ダムについて、地域ごとに、ダム水源地の自治体等と共同で、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「水源地域ビジョン」を策定することとしています。

2 水源地域ビジョンの概要

1) 水源地域ビジョンの定義

「水源地域ビジョン」とは、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化のために、水源地域の自治体、住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体や関係行政機関等に協力を求めながら、策定する水源地域活性化のための行動計画です。

2) 対象ダム

「水源地域ビジョン」を策定することとなるダムは、国土交通省所管の直轄ダム、独立行政法人水資源機構（旧 水資源開発公団）ダムを対象としています。

3) 「水源地域ビジョン」の策定方法

ダム事業者・管理者、流域の自治体、住民、関係行政機関、有識者等からなる組織を設置し、水源地域の関係者の意向を反映できる方法により策定します。

4) 水源地域ビジョンの内容

「水源地域ビジョン」は、人づくりや既存施設の有効性活用の推進等のソフト対策に重点を置いていますが、施設整備を伴う場合は、施設の利活用の方策や維持管理等について、「水源地域ビジョン」に盛り込むこととなります。

また、水源地域ビジョン実施のための役割分担、連携・協力の方法や水源地域の活性化に必要な事項等についても盛り込むこととなります。

5) 「水源地域ビジョン」の実施

ダム事業者・管理者は、「水源地域ビジョン」に定めた活性化のための活動を支援するとともに、流域の自治体、関係行政機関、NPO、住民等に対しても情報提供や活動への理解と協力の呼びかけを行っていきます。

また、役割分担、連携・協力を円滑に進めるために、水源地域ビジョン策定組織を活用する等して水源地域ビジョンの推進組織づくりを積極的に行っていきます。

6) 「水源地域ビジョン」の支援

国土交通省地方整備局などでは、「水源地域ビジョン」に基づく水源地域活性化を関係部、事務所等が連携して、総合的に支援していきます。

また、国土交通省内に水源地域ビジョン会議を設置し、ダムごとに設置する水源地域ビジョン推進組織等に対して、水源地域活性化の円滑な推進のための支援等を行っていきます。

（参考：河川 2001-6月号「水源地域ビジョン」の策定について 小池栄史）

3 木曽川源流の里ビジョン策定の目的

木曽川源流の里ビジョンは、

- 木祖村民、木祖村役場、その他関係機関の参加のもと、地域が主体となって考え、行動し、流域で協力・連携しながら支えあう自立的な活性化
- 水源涵養林の保全など水循環に果たす機能を壊すことなく、地域の多様な資源を上手に活用する持続的な活性化

以上の視点に立ち、地域づくり、産業振興、観光・レクリエーション、流域連携等のあり方を討議し、活性化の方向性や具体的手法、活性化に向けた推進体制を整理することで、“水源地域 木祖村”の自立的・持続的な活性化を促進し、木曽川流域のバランスの取れた発展に資することを目的とします。

4 木曽川源流の里ビジョンの策定方法

水源地域自治体である木祖村では、日進市や名古屋市、一宮市との上下流交流を通じ、水源林の保全や地域の活性化を図る取り組みが進められてきました。また、国の上下流交流調査等を通じ、地域活性化組織のあり方や上下流交流・地域連携による活性化のあり方等についても検討を重ねてきました。

上下流交流の実践や議論を積み重ねる中で課題となってきたのが、住民参加型の推進体制の構築です。地域活性化の企画・検討段階から実践まで、より多くの村民が自ら考え・行動する機会を増やすことで、村民ニーズに即した実効性ある取り組み、多様な主体の参加による活力ある持続的な取り組みとしていくことが求められていました。

こうした背景を踏まえ、「木曽川源流の里ビジョン」の策定にあたっては、村民自身が考え・まとめ、ビジョン策定後の実践活動の中心となることを念頭に置き、検討組織を構成しました。

1) 策定体制

地域住民の意向に沿った実効性の高いビジョンづくりとするため、ビジョンの策定方法は“地域に関わる多様な立場の人々が参加し、地域活性化に向けた諸課題に対する認識をお互いに共有し、その解決策を探る”という共同作業で進める“ワークショップ方式”としました。

策定組織は、これまで木祖村の活性化やダム湖利用検討に関わってきた村民を中心に、木祖村、水資源開発公団、関係諸機関を固定メンバーとし、これに一般公募の村民を加えた検討会を設置しました。事務局は味噌川ダム管理事務所及び木祖村が担いました。

なお、具体的施策を検討していく上で他機関の協力支援が必要な場合は、その都度協議し、メンバーの追加をしていくものとなりました。



木曽川源流の里ビジョン検討会委員名簿

本ビジョンの策定にあたっては、下表の委員により検討を進めてきました。今後は、このメンバーを中心に新たな仲間を増やすことで、より活力ある持続的な推進体制を構築しながらビジョンの実現を図っていきます。（平成14年3月）

機関等名	役職	氏名
木祖村民	奥木曽湖利用協議会	山口 邦子
	奥木曽湖利用協議会	川口 節子
	奥木曽湖利用協議会	奥原 広雄
	国土庁上下流交流調査検討委員	笹川 ふじ子
	国土庁上下流交流調査検討委員	沢頭 修自
	国土庁上下流交流調査検討委員	田中 静雄
		武居 一志
		永島 武男
		深沢 文夫
木祖村		太田 弘
	村長	武重 善博
	助役	栗屋 徳也
	収入役	唐沢 一寛
	総務課長	青木 正昭
	建設農林課長	久保田 文勝
	商工観光課長 兼 木祖村観光協会事務局長	小林 道雄
総務課	渡辺 孝	
木曽広域連合	企画振興課長	下沢 孝一
	地域振興係長	村田 広司
国土交通省中部地方整備局	河川部河川管理課課長補佐	北原 修
長野県土木部	河川課	城之内 高志
木曽森林管理署	流域管理調整官	木村 杲
木曽森林管理署 藪原森林事務所	首席森林官	永瀬 広文
木祖村商工会	事務局長	川口 勝
木曽川漁業協同組合 木祖村支部	支部長	牛丸 恒明
小木曽林野利用農業協同組合	組合長	笹川 英一
こだまの森	管理事務所長	武居 孝男
水資源開発公団 中部支社	施設課長	大熊 清和
水資源開発公団味噌川ダム管理所	管理所長	池田 靖彦

2) 策定までの経過

合計5回の検討会を開催し、策定作業を進めました。

第1回	<p>日時 平成13年10月1日 場所 木祖村役場 2階 大会議室</p> <p>検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「源流の里」の魅力をどのように活かしていくか（グループ討議） <ul style="list-style-type: none"> □ 「源流の里」の魅力は何か（自然、伝統行事、産業、地域活動等） □ 「源流の里」の魅力を活かして何をしたいか □ 会議名称 <p>参加者 23名</p>
第2回	<p>日時 平成13年10月25日 場所 味噌川ダム管理所 3階 会議室</p> <p>検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会議名称 ■ 「源流の里 木祖村」の魅力、村民の活動テーマについて（グループ討議） <ul style="list-style-type: none"> □ 何をすべきか活動のアイデアを抽出（前回の議論をヒントにして） □ 活動の優先順位の整理（来年からすぐに着手する活動の抽出） □ 優先順位の高い活動の実現化の検討（役割分担・スケジュール 等） <p>参加者 23名</p>
第3回	<p>日時 平成13年11月16日 場所 木祖村役場 2階 大会議室</p> <p>検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 村民の行動プランづくり（グループ討議） <ul style="list-style-type: none"> □ 行動メニューの検討（前回のグループ討議の継続） □ 優先順位の高い行動の抽出（来年からすぐに着手する活動の抽出） □ 優先順位の高い行動の実現化の検討（木曽川・水の始発駅フォーラムは何をすべきか） <p>参加者 24名</p>
第4回	<p>日時 平成14年1月18日 場所 木祖村役場 2階 大会議室</p> <p>検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 村民の行動プランづくり <ul style="list-style-type: none"> □ 4つのプロジェクトについてプロジェクトリーダー、役割分担等を検討する。 <p>参加者 22名</p>
第5回	<p>日時 平成14年2月26日 場所 味噌川ダム管理所 3階 会議室</p> <p>検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ プロジェクトの確認 <ul style="list-style-type: none"> □ 4つのプロジェクトについて事務局案を検討する。 □ リーディングプロジェクトの進め方を整理する。 ■ 推進体制の確認 <ul style="list-style-type: none"> □ 木曽川・水の始発駅フォーラム推進体制を整理する。 <p>参加者 26名</p>

第2章 水源地域の現状と課題

1 木祖村の現状

1) 木祖村の概況

江戸時代に徳川幕府が天下を支配した後は、村内藪原地区は旧中山道六十九宿の一つ「藪原宿」として栄え、江戸時代の中頃には、現在伝統工芸品として生産されている「お六櫛」の元祖である木櫛の生産がはじまりました。

明治7年には藪原村、荻曾村、菅村が合併し木祖村となりました。明治17年には藪原村、小木曾村、菅村に分村しましたが、明治22年再び合併し現在の木祖村となりました。

木曾谷に中央西線や国道19号が開通し、木祖村でも主力産業の木工産業を中心に栄え、また昭和初期に開設された藪原スキー場には中京方面からの利用者が訪れ、観光産業も昭和初期より盛んにおこなわれています。現在では中央高地特有の気候を利用した高原野菜の生産も盛んにおこなわれています。

木祖村の人口は、平成27年には3,102人となっており減少の傾向をたどってきています。

木祖村の土地利用を見ると、山林が9割を占めており、集落及び耕地は、木曾川とそこに合流する大小の河川沿いの標高900m～1,100mの地域に散在しており、藪原地区に住宅地及び商業地が密集し、市街地的形態を形成しています。

2) 地域の諸資源

(1) 自然資源

①河川・湖沼

木祖村の主要な河川としては、村の北から南に木曾川が貫流し、そこに笹川、塩沢川、菅川の一級河川など18ヶ所の準用河川が合流しています。

湖沼としては、奥木曾湖の他、大平あやめ公園池等があります。

② 森 林

村の面積の9割程度を占める山林のうち、その60%が国有林となっています。この広大な森林の中でも、“郷土の森・水木沢天然林”は「平成の名水百選」にも選定され、貴重な森林資源として人々に親しまれています。

(2) 生産資源

御嶽はくさい、そば、とうもろこし、肉用牛、キャンパス・額縁、お六櫛、木工芸品、木曾漆器、漢方薬、日本酒、菓子類、漬け物 等

(3) 文化資源

木祖村における地域の文化資源としては、次のような分布がみられます。

①文化財・歴史的資源

木祖村には、お六櫛の技法の1件の県指定文化財の他、18件の村指定の文化財、天然記念物が分布しています。

②伝統行事

藪原神社祭礼（藪原祭り）、衣更著神社祭礼、諏訪神社祭礼などの伝統的な行事が行われています。

3) 観 光

年間を通じて、約21万人の観光客が木祖村の観光地を訪れていますが、観光客のニーズの多様化により、全体に減少傾向にあります。また、県道奈川木祖線の観光車両は、年間20万台に及びますが、そのほとんどが上高地、乗鞍方面へ向う通過車両であり、木祖村は通過型観光地の性格が強いのが現状です。

主な観光資源

極楽寺、鳥居峠、芭蕉句碑、宮川家資料館、やぶはら高原スキー場、こだまの森、水木沢天然林、信濃路自然歩道中山道ルート、郷土館、木工文化センター、縁結神社、味噌川ダム防災資料館（木曾川源流ふれあい館）

4) コミュニティ活動の現状と動向

合併以前のそれぞれの地域の活動や文化が今も残り、代表的な例では、藪原祭りなど、今も地域の若者が一堂に集いコミュニケーションを深める場もあります。また、菅地区の源流太鼓のように、地域の若者の創意工夫により発展してきた組織もあります。

この他、地域の環境改善や地域の活性化を目的とした住民主体の活動が多数取り組まれています。以下に主な活動団体を記します。

地域づくりや地域活性化に関わる活動団体

- | | | | |
|------------|--------|--------|------------|
| ・緑の少年団 | ・たつの会 | ・商工会 | ・花咲く村づくりの会 |
| ・しょう漬けの会 | ・自然同好会 | ・絵画クラブ | ・藪原カメラクラブ |
| ・漁協 | ・おかみの会 | ・すすめ塾 | ・藪原祭り保存会 |
| ・畜産部会 | ・お六櫛組合 | ・愛菜の会 | ・地域自治協議会 |
| ・見山花の森を作る会 | 等 | | |

こうした活動も盛んな反面、基本的なコミュニティの場である行政区などの活動に対して積極的な参加の気運が薄れ、各種行事への不参加などが目立つようになりました。

5) 交流・連携

木曽川源流の里である木祖村は、下流に対して森林保護と水源涵養の必要性を訴え、水源の森の整備を進めています。

また、下流地域との相互理解のもと、教育文化、観光、産業、職域など、幅広い分野で交流の可能性を追及し、下流地域との交流人口を増やすことにより実質的な人口増加に結び付け地域振興・活性化を図ろうとしています。

①日進市との交流

平成4年4月「木曽川の水のつながり」が縁となり、下流受益者のひとつ愛知県日進市と友好自治体提携を結び、官民総ぐるみの交流に発展し、様々な上下流交流事業を日進市の協力を得て実施しています。

味噌川ダム左岸の国有林で、日進市が森林保護や水源涵養を目的として分収造林事業を行っており、全国的にも希なケースとなっています。

「自分で使う水は自分で守る」ための森づくりに理解を示し、毎年多くの市民が村を訪れ、植林や育林に汗を流し、村民との交流を深めています。

②名古屋市との交流

名古屋市上下水道局は、毎年6月初旬の水道週間に浄水場施設の開放等の広報行事を開催しています。平成9年度から水源地である木祖村も参加し、郷土芸能の披露・物産展等を行い、水源地を理解してもらう活動を実施しています。

又、平成20年には下流域での交流事業の推進と信頼関係の構築、産業面での経済交流を図るため、名古屋市南区に木祖村名古屋出張所と昭和区桜山商店街に木祖村アンテナショップを開設しました。現在は昭和区桜山に移転し、名称を名古屋総合拠点施設として運営しています。

③その他の下流地域との交流

愛知県一宮市との文化交流も盛んになり、木祖村が力を入れている「全国日曜画家中部日本大会」に多くの応募作品が寄せられ、多数の入賞者を出しています。

5月に開催される、一宮市リバーサイドフェスティバルに参加し上流地域のPRを積極的に行っています。

その他、愛知県尾張旭市、知多市、東海市、三重県木曽岬町等、木曽川で結ばれている下流地域との交流イベントや物産展、展示会などが年々増加しています。

6) 味噌川ダム周辺環境整備

(1) 「こだまの森」の建設

こだまの森は木祖村の西山地区（やぶはら高原）に昭和61年にオープンした野外スポーツレクリエーション施設であり、木祖村の夏場の観光の拠点となっています。

(2) 周辺環境整備計画について

ダム周辺環境整備は、ダム湖周辺の自然環境を保全し、新しく創出された水辺空間を「潤いの場」として積極的に活用することを目指して実施するものです。

	整備箇所	整備方針	整備内容
ダム周辺	左岸広場	プラント及びコア倉庫の跡地の整備。味噌川ダムの玄関口として整備する。	面積＝0.7ha ダム資料館、植栽、駐車場 モニュメント、湖名碑、慰霊碑 あづま屋等
	ダム資料館	左岸広場の中心施設。左岸監査廊出入口部と一体の構造。左岸広場にマッチしたデザインとする。	鉄骨2階建 建築面積：約 286㎡ 延床面積：約 534㎡ 展示ホール、多目的ホール、トイレ等
	右岸広場	洪水吐き仮設備及びプラント跡地の整備。管理所周辺と一体感のある整備を行う。	面積＝0.08ha 植栽、説明板、駐車場等
	ダム下流地区	ダム下流土捨場跡地。緑化を中心とする。	面積＝1.0ha 植栽、駐車場等
その他	正沢地区	土捨場跡地の整備。ダムに面した親水公園。	面積＝1.2ha 親水護岸、釣り場、せせらぎ水路 駐車場、あづま屋等

2 水源地域活性化に向けた課題

既存の調査結果及び、検討会での議論を通して整理した、木祖村が水源地域として活性化していくための課題は、以下の通りです。

課題	地域に誇りを持つとともに、地域の活動を活発にしていく必要がある。
課題	地域住民の力を引き出していく必要がある。
課題	木祖村の情報を積極的に発信していく必要がある。
課題	ダム周辺の整備を進める必要がある。
課題	村外に売れるものを作る必要がある。
課題	交流人口を増やしていく必要がある。
課題	イベントを盛り上げていく必要がある。
課題	生活条件を改善する必要がある。

第3章 木曽川源流の里ビジョンの基本方針と取り組みの方向性

水源地域活性化に向けた課題を踏まえ、ビジョンの基本方針を以下の通り設定します。

基本方針

～まずは～

地域を知り、地域に誇りを持つ。

活性化とは村民がこそって木祖村に誇りを持つことです。木祖村には自然や文化、人材などの資源がたくさんあります。こうした地域の宝に、子どもから大人まで、多くの村民が気づき誇りを持てる村にしていきます。

また、住民がまちづくりに参加している姿が見えると、まち全体に元気が出ます。住民の意識改革を進め、まちづくりや活性化への住民参加を促し、住民パワーを村の外や内に常に示していきます。

地域の宝を探し、磨きあげる

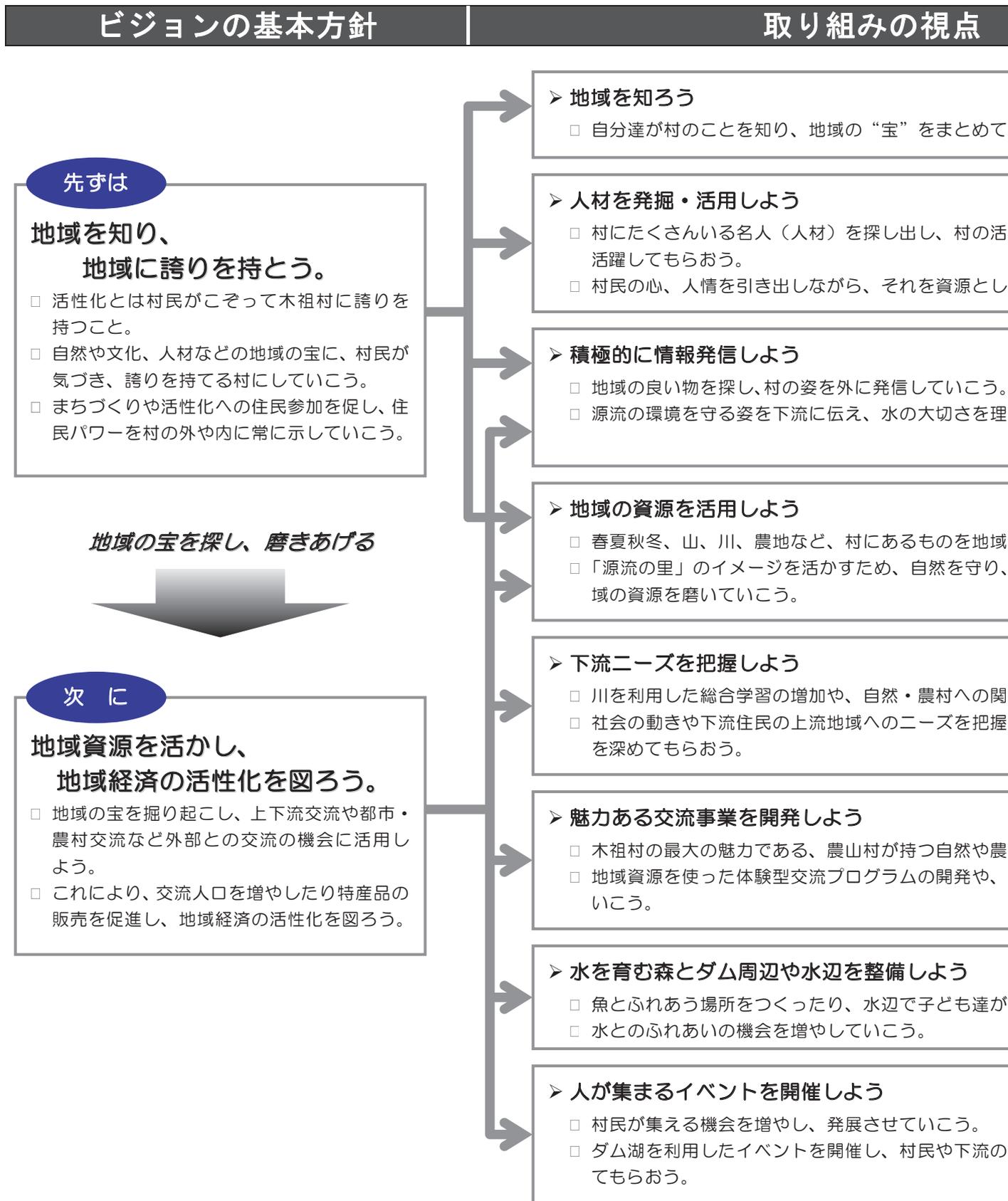
基本方針

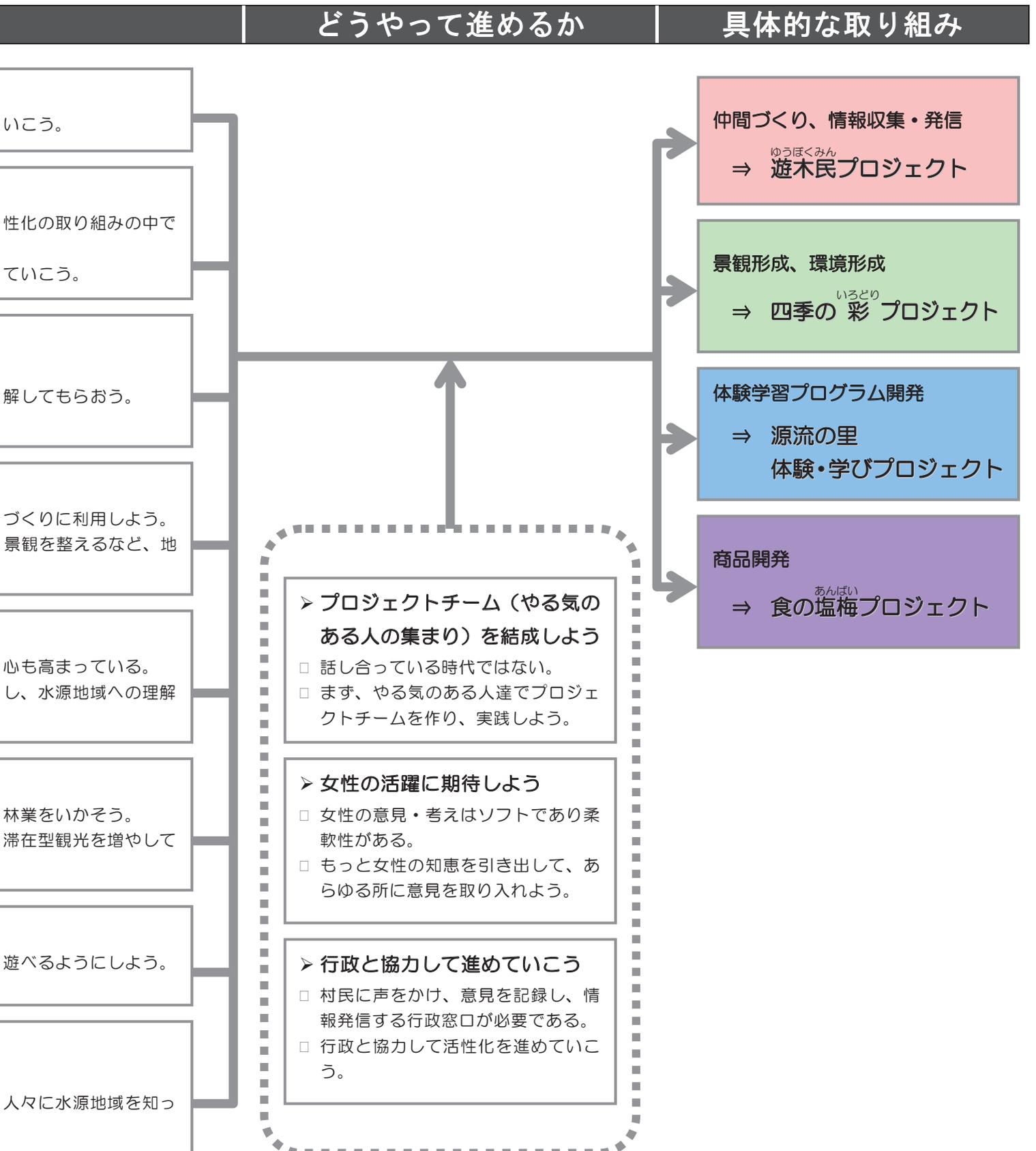
～次に～

地域資源を活かし、地域経済の活性化を図ろう。

埋もれている地域の宝を掘り起こし、上下流交流や都市・農村交流など外部との交流の機会に活用します。これにより、交流人口を増やしたり特産品の販売を促進し、地域経済の活性化を図ります。

活性化に向けた取り組みを展開する際の視点及び方向性は、以下の通りです。





第4章 活性化方策

村民を中心に、以下の4つのプロジェクトを立ち上げ、活性化の取り組みを推進します。

1 遊木民プロジェクト (仲間づくり、情報収集・発信)

村民が村の活性化について考え、議論する場「木曽川・水の始発駅フォーラム」を企画・運営するプロジェクトです。「木曽川源流の里ビジョン」の実現に向け何をすべきか、村民自らが探り、実現化の方策を検討するとともに、協力してくれる仲間作りを進めます。また、様々な取り組みの基礎情報となる木祖村の地域情報の収集、活性化に関する取り組みの村内外への情報発信を行います。

仲間づくり		実施時期
<small>ゆうぼくみん</small> 遊木民 プロジェクト-1	<input type="checkbox"/> 「木曽川・水の始発駅フォーラム」	継続
	<input type="checkbox"/> ボランティア募集「遊木民集まれ」	短期※1
	<input type="checkbox"/> 人材バンク（発掘・登録）の整備	短期
	<input type="checkbox"/> 地域案内人制度の検討	中・長期
村民ができること	<input type="checkbox"/> 村民同士で仲間の輪を広げる	木曽川・水の始発 駅フォーラムへの 参加
行政・ダム管理者・下流住民への期待	<input type="checkbox"/> 事務局の場所と人材の提供（木祖村）※2	

※1…短期は1～2年、中・長期は3年～

※2…（ ）は、関わりが期待される主体
以下同様

源流のかわら版づくり		実施時期
ゆうほくみん 遊木民 プロジェクト-2	□ 情報収集 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 都市住民や下流住民のニーズの把握 ▪ 民話等の昔話、言い伝え等を掘り起こす。 ▪ 木祖村の名勝発掘プロジェクト（村の名所、知られざる美しい所等の掘り起こし）⇒村民からデータを集める。⇒「源流の里マップ」づくり 	は短期 他は中・長期
	□ 情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 「木曽川・水の始発駅フォーラム」の議論を村民に情報発信 ▪ ホームページPR ▪ 専門家によるPR方法の再検討 ▪ 四季のアレンジ ▪ サインづくり 	は短期 他は中・長期
村民ができること	□ 各分野の「源流の里マップ」づくり…日々地図づくり、資源発掘 □ 情報誌「かわら版」の発行…中高生との協働作業（地域を知ってもらう、パソコン等の作業やかわら版の編集作業で協力してもらう）	
行政・ダム管理者・下流住民への期待	□ PCの提供（木祖村） □ ホームページの作成と管理（木祖村） □ 木曽広域ホームページとのリンク（木祖村、木曽広域連合） □ 「源流の里マップ」の印刷	

2 四季の彩プロジェクト (景観形成、環境形成)

源流の里木祖村として、心さわしい環境や景観の保全と創造を検討するプロジェクトです。源流地域としての川や森のあるべき姿を、生態系の保全や子どもたちの教育、季節変化に富んだ景観、歴史的な景観といった視点から探り出します。

木曽川環境整備		実施時期
四季の彩 プロジェクト-1	<input type="checkbox"/> 源流（川）の夢づくり…将来像づくり	中・長期
	<input type="checkbox"/> 住民参加の清掃活動（クリーンアップ作戦） ▪ 川に限らず主要道路周辺のクリーンアップ ▪ ゴミゼロ運動（春）をもう1回増やす	短期
村民ができること	<input type="checkbox"/> 木曽川将来像プランをつくる <input type="checkbox"/> 木曽川全体と木祖村内で木曽川風景 10 選をそれぞれ選ぶ <input type="checkbox"/> 不法投棄のゴミを拾う	
行政・ダム管理者・下流住民への期待	<input type="checkbox"/> ごみの回収（木祖村） <input type="checkbox"/> 必要な道具等の提供（木祖村）	
森づくり		実施時期
四季の彩 プロジェクト-2	<input type="checkbox"/> 育林・植林の環境プロジェクトの実施…日進市森林ボランティアと協力	中・長期
	<input type="checkbox"/> 紅葉の里山づくり	中・長期
	<input type="checkbox"/> ヤマボウシ、ヤマザクラの植樹	中・長期
村民ができること	<input type="checkbox"/> 景観形成林の育成 <input type="checkbox"/> どここの山に植えるか植栽プランづくり	
行政・ダム管理者・下流住民への期待	<input type="checkbox"/> 森林整備協定の締結（木曽広域連合） <input type="checkbox"/> 苗木を下流に配る（木曽広域連合） <input type="checkbox"/> 森林整備補助の上乗せの検討（木曽広域連合） <input type="checkbox"/> ドングリの苗木配布（木祖村） <input type="checkbox"/> 国有林を混交林にしていく（林野庁） <input type="checkbox"/> 苗木の育成（下流住民） <input type="checkbox"/> 森林ボランティアへの参加（下流住民）	

四季の彩 プロジェクト-3		花咲く村づくり	
			実施時期
		<input type="checkbox"/> やぶはら花街道整備	中・長期
		<input type="checkbox"/> 「花咲く村づくりの会」の活動支援	短期
		<input type="checkbox"/> 一万本の桜の植樹	中・長期
		<input type="checkbox"/> リンドウの里づくり	中・長期
村民ができること		<input type="checkbox"/> クリーンアップと花咲く村づくりを同日に開催するなど既存の活動をつなげて参加者の輪を拡げる。また月1回開催など定期的な催しとする。 <input type="checkbox"/> 植樹・管理 <input type="checkbox"/> 自然同好会の参加 <input type="checkbox"/> 花いっぱい運動を展開 <input type="checkbox"/> 自治会にも活動を拡げたい	
行政・ダム管理者・下流住民への期待		<input type="checkbox"/> 既存の活動のバックアップ（木祖村） <input type="checkbox"/> プランターの統一（木祖村） <input type="checkbox"/> アダプト制度の活用（長野県）	
四季の彩 プロジェクト-4		動植物の生息空間づくり（ビオトープ整備等）	
			実施時期
		<input type="checkbox"/> 川のビオトープ整備	中・長期
		<input type="checkbox"/> 里山づくり	中・長期
		<input type="checkbox"/> ホタルの里づくり ⇒ 街中へ水路を整備（日常生活における水との共生）	中・長期
村民ができること		<input type="checkbox"/> 優良なビオトープ事例の視察 <input type="checkbox"/> 里山の森づくり（あやめ池周辺等） <input type="checkbox"/> いなくなった生物（少なくなった）の復元	
行政・ダム管理者・下流住民への期待		<input type="checkbox"/> 魚道整備（河川管理者） <input type="checkbox"/> ヨシの再生（河川管理者） <input type="checkbox"/> 多自然型川づくり（河川管理者）	
四季の彩 プロジェクト-5		モニュメント整備	
			実施時期
村民ができること		<input type="checkbox"/> シンボリックなモニュメントの整備	中・長期
		今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討	
行政・ダム管理者・下流住民への期待		今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討	

3 源流の里 体験・学びプロジェクト (体験学習プログラム開発)

源流の里の豊かな地域資源を活かした体験・学習プログラムの開発を進めるプロジェクトです。村の生業（木工業、農業、林業）や暮らし（歴史、伝統文化）、自然（森、川、湖）などの多様な資源を掘り起こし、人材をネットワークすることで、都市や下流地域との交流活動において必要となる体験学習プログラムを開発します。

源流の里 体験・学び プロジェクト-1	体験の村づくり	
		実施時期
	<input type="checkbox"/> 各種体験プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ▪ 山（林業）の体験 ▪ 川の体験 ▪ 土（農業）の体験 ▪ 動物とのふれあい体験 ▪ 暮らし体験 ▪ 遊びの体験 	短期
	<input type="checkbox"/> 探検プログラムの開発 <ul style="list-style-type: none"> ▪ カヌー、サイクリングなど四季折々の探検メニュー 	短期
村民ができること	<input type="checkbox"/> マイスター探し <input type="checkbox"/> 体験メニュー探し <input type="checkbox"/> 指導者として参加 <input type="checkbox"/> 既存の体験活動の一本化（たつの会 等） <input type="checkbox"/> 体験指導付き宿の検討	
行政・ダム管理者・下流住民への期待	<input type="checkbox"/> 林道整備（林野庁）	

源流の里 体験・学び プロジェクト-2	総合学習支援	
		実施時期
	<input type="checkbox"/> 木祖村をフィールドとした総合学習の促進	中・長期
村民ができること	<input type="checkbox"/> 地域住民として総合学習支援	
行政・ダム管理者・下流住民への期待	<input type="checkbox"/> 総合学習におけるフィールドとして活用の検討（木祖村、木曽広域連合、下流住民）	

源流の里 体験・学び プロジェクト-3	湖面・水辺利用促進		実施時期
		□ 奥木曾湖や木曾川の水辺利用の促進	中・長期
村民ができること	<input type="checkbox"/> カヌー指導 <input type="checkbox"/> カヌーによるセルフレスキュー技術の向上		
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	<input type="checkbox"/> 湖面開放（ダム管理者） <input type="checkbox"/> トイレ整備検討（ダム管理者） <input type="checkbox"/> 放流量の公開（ダム管理者）		
源流の里 体験・学び プロジェクト-4	林道活用促進		実施時期
		□ 鉢盛山ハイキングの促進	中・長期
村民ができること	今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討		
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	<input type="checkbox"/> 期間・時間限定の林道通行許可の検討（林野庁）		
源流の里 体験・学び プロジェクト-5	俳句の里PR		実施時期
		□ 鳥居峠の俳句大会	中・長期
村民ができること	今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討		
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討		
源流の里 体験・学び プロジェクト-6	もてなしの環境づくり		実施時期
		□ 観光施設の無料化の検討（期間限定）	中・長期
		□ ボランティアによる出店の検討（賑わいの演出）	中・長期
村民ができること	今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討		
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	今後、『木曾川・水の始発駅フォーラム』で検討		

4 食の塩梅プロジェクト（商品開発）

特産品の開発と販売促進を検討するプロジェクトです。木祖村の食文化の掘り起こしや、地場の素材を活かした新たな料理の開発、土産品の開発などを進めます。また、特産品の販売ルートの開拓や販売所の整備についても検討を進めます。

名産品開発		実施時期
食の塩梅 プロジェクト-1	<input type="checkbox"/> 食（食文化）の掘り起こし	短期
	<input type="checkbox"/> おいしいものづくり	中・長期
	<input type="checkbox"/> 特産品づくり（山菜づくり）	中・長期
	<input type="checkbox"/> おいしい水（天然で飲めるように）	中・長期
村民ができること	<input type="checkbox"/> おいしいもの探し・づくり	
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	<input type="checkbox"/> 木曽食の祭典の開催（木曽広域連合）	
産直の販売所の整備		実施時期
食の塩梅 プロジェクト-2	<input type="checkbox"/> ふれあい広場整備	中・長期
	村民ができること	<input type="checkbox"/> 販売所の集約化
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	<input type="checkbox"/> 販売所の集約化（木祖村） <input type="checkbox"/> 営林署敷地の活用（林野庁）	
産直のしくみづくり		実施時期
食の塩梅 プロジェクト-3	<input type="checkbox"/> 販売ルートの検討	中・長期
	村民ができること	今後、『木曽川・水の始発駅フォーラム』で検討
行政・ダム管理者・下流住民 への期待	今後、『木曽川・水の始発駅フォーラム』で検討	

第5章 推進体制

“木曽川源流の里ビジョン”の推進にあたっては、平成14年に“木曽川・水の始発駅フォーラム”を立ち上げ、本ビジョンで抽出された各プロジェクトについての詳細検討、実現化、見直し等を行なってきました。

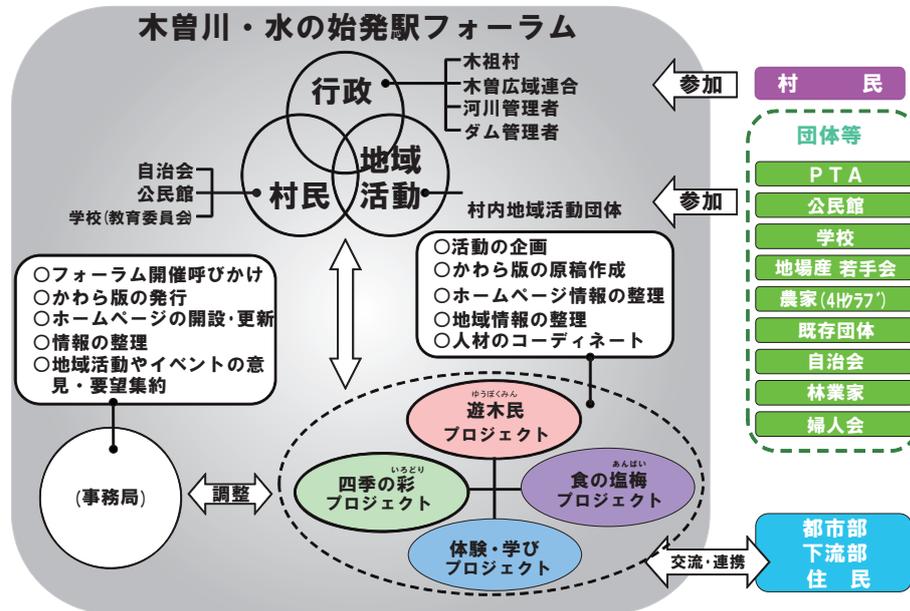
木曽川・水の始発駅フォーラムのメンバー構成は、木曽川源流の里ビジョンの検討メンバーを中心に、一般公募の村民、地域づくりや地域改善の活動団体に参加を呼びかけ、村民を中心とした企画・運営組織の形成を図りました。また事務局は、木祖村が担い、村民への開催呼びかけ、メンバーがまとめた会議結果の記録、収集・整理された地域情報の管理、関係行政機関との調整等を行なってきました。

フォーラムで検討した個別のプロジェクトは、木祖村を始めとした関係行政機関に提案・報告し、可能なものから実施に取り組みました。実施に際しては、プロジェクト内容に応じて村民や下流住民に参加を呼びかけ活動してきました。

平成21年には、これまでの活動実態等を反映させ、「体験・学びプロジェクト」の事業を「遊牧民プロジェクト」が吸収し、3つのプロジェクトに再編しました。又、翌年、「行政主導ではなく、村民主体で活動が行える地域活性化の要となる組織が必要である」と考え、同フォーラムを発展的に解消し、新たに『NPO法人 木曽川・水の始発駅』を設立しました。

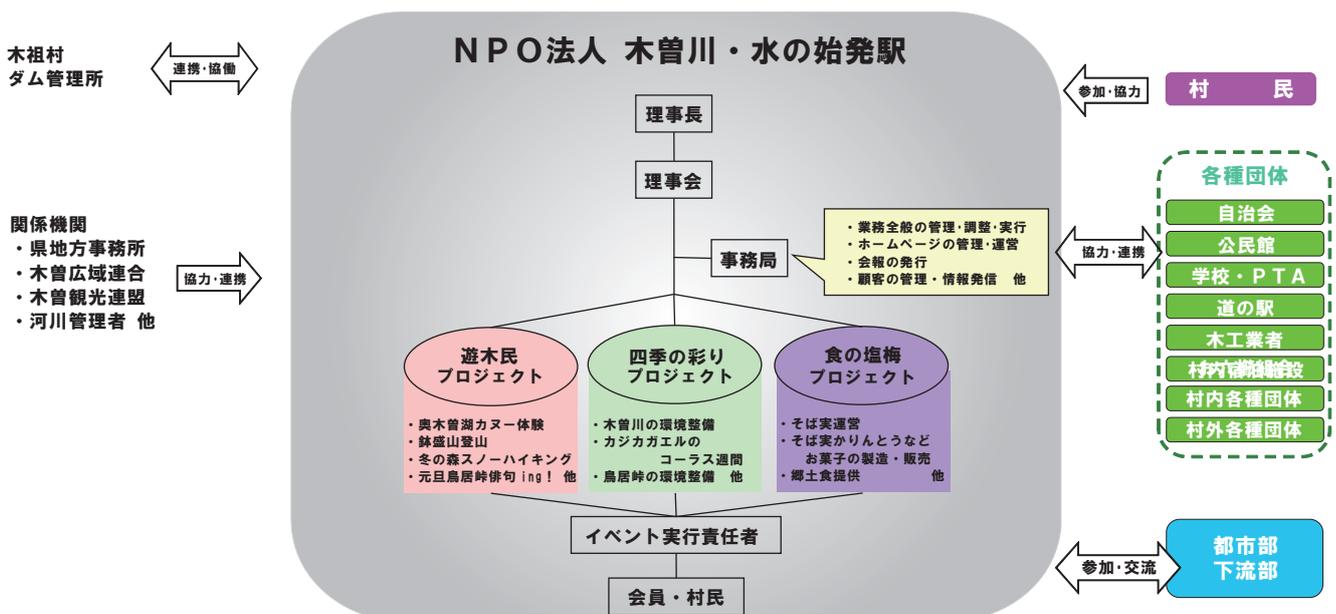
- ・平成 8年12月 味噌川ダム管理開始
- ・平成13年10月 味噌川ダム水源地域ビジョン検討開始
- ・平成14年 3月 味噌川ダム水源地域ビジョン「木曽川源流の里ビジョン」策定
木曽川・水の始発駅フォーラムを設立
- ・平成15年 7月 木曽川・水の始発駅フォーラムが本格的に活動開始
- ・平成21年 4月 4つのプロジェクトを3つに再編
 - ・遊牧民プロジェクト（体験・学びプロジェクトを吸収）
 - ・四季の彩プロジェクト
 - ・食の塩梅プロジェクト
- ・平成22年 4月 NPO法人 木曽川・水の始発駅 設立（フォーラムの活動承継）
- ・平成22年 7月 長野県河川協会表彰（河川の美化清掃 等）
- ・平成24年 5月 日本河川協会河川功労者表彰受賞（環境保全、地域振興活動が評価される）
- ・平成25年11月 食品加工施設「そば実」オープン（惣菜販売・喫茶営業開始）

推進体制図(平成14年～平成21年)



※体験・学びプロジェクトは、平成21年に遊木民プロジェクトに吸収

推進体制図(平成22年～)



第6章 事業紹介

1 木曽川上下流交流の支援

- サマーキャンプ in K I SOGAWA【遊木民・食の塩梅】
 - ・木祖村、名古屋市、日進市の子も達が2泊3日のキャンプをします。カレーづくりや野菜収穫体験の他、グループに分かれて様々な体験プログラムを行います。



2 木曽川に関わる河川環境や森林環境の整備

- 木曽川的环境整備【四季の彩】
 - ・「木曽川 水の始発駅」の標柱が建つ河川敷を整備しています。夏には木曽川を楽しむイベント（カジカガエルのコーラスウィーク 他）も開催します。



3 地域の自然・観光資源を活用した観光案内等

- 中山道鳥居峠・水木沢天然林ガイド【遊木民】
 - ・中山道鳥居峠や水木沢天然林を主に、地元ガイドならではの地域の文化や歴史、暮らしの話を交えながら、楽しく分りやすく案内します。



- 中山道木曾路街道歩き（贄川宿～馬籠宿 他）【遊木民】
 - ・中山道木曾路約80km を数日間に分けて完歩する企画です。四季折々の木曾路の街道風情や豊かな自然をゆっくり散策しながら歩きます。



- グリーンツーリズム事業（春・秋・冬）【遊木民】
 - ・四季に合わせたプログラムで源流の里の暮らしや文化を体験してもらいます。
 - 春のよくばり体験（山菜収穫体験、山菜パーティ、新緑トレッキング 他）



- 秋のよくばり体験（きのこパーティ、紅葉トレッキング、お六櫛磨き体験 他）



- 冬のよくばり体験（雪像づくり、そば打ち、スノーシュー体験 他）



● 鉢盛山登山【遊木民】

- ・木曽川源流の山「鉢盛山（2,447m）」に多くの方が親しみをもってもらえるよう下流域を中心に広く募集をし、年3回ほど実施しています。



● 奥木曽湖カヌー体験【遊木民】

- ・味噌川ダムのダム湖「奥木曽湖」で行うカヌー体験です。湖上で感じる爽やかな風と周囲の大自然との一体感が初心者でも気軽に体験できます。



● スノーシュー体験【遊木民】

- ・木曽の寒い冬を楽しむスノーシュー体験です。ウサギやキツネの動物の足跡を追いかけ、木々の冬芽を観察しながら冬の森を散歩します。



● 糸ノコおもちゃコンテスト&フェスティバル（間伐材を使用）【遊木民】

- ・間伐材を糸鋸で切り抜く、木のおもちゃのコンテストです。コンテスト表彰式に合わせて木工体験や丸太切り、木のおもちゃ展などのイベントも開催します。



- 元日鳥居峠俳句ing!【遊木民】
 - ・元日の朝、鳥居峠の御嶽神社までハイキングをします。休憩小屋で行われる新年会では、鳥居峠に松尾芭蕉の句碑が建っていることから俳句会も行なわれます。



- 親子体験プログラム「森と水の教室」【遊木民】
 - ・季節のプログラムを親子で一緒に楽しみながら、貴重な水資源や源流の里の暮らしや文化を体験してもらいます。



- バードコール制作体験【遊木民】
 - ・ヒノキ、サワラ、トチなど木祖村にある木を使って自分だけのバードコールをつくります。お土産や子どもたちの課外活動の一環として体験してもらいます。



4 風土の特徴を活かした食に関する紹介・商品開発・販売

- 食の塩梅「そば実」運営【食の塩梅】
 - ・惣菜や菓子の製造販売拠点として中山道藪原宿内で「そば実」を運営しています。喫茶スペースも併設しており、地域住民や旅人の憩いの場として利用されています。



～NPO法人 木曾川・水の始発駅 理事長 湯川喜義 挨拶～



『木曾川源流の里ビジョン』（味噌川ダム水源地域ビジョン）実施の経過と今後

日頃は、味噌川ダム管理所はじめ木祖村当局には大変お世話になりありがとうございます。

平成28年は「味噌川ダム」管理開始20周年に当たるということで、平成14年より進めてきた『木曾川源流の里ビジョン』実施の経過を振り返り、今後の方向について述べたいと思います。

『木曾川源流の里ビジョン』は、平成8年に管理開始した「味噌川ダム」に関連して、“ダム水源地域の自立的・持続的な活性化”を目的として、平成14年に策定され、村長を会長・ダム管理所長を副会長とした「木曾川・水の始発駅フォーラム」が推進主体となり、4つのプロジェクトにて実施してまいりました。

以降、平成17年(2005)に“平成の合併”議論の結果、木祖村は住民投票の結果をもって自立を選択、平成20年(2008)には『全国源流シンポジウム』の開催などの取り巻く環境の変化がありました。ほぼ順調に活動を続けてまいりました。しかし、参加者の高齢化および若年層の多忙化にともなう参加者数の減少等の問題が顕在化してきました。

このような背景を受け、平成20年(2008)澤頭修自氏(初代理事長)より、「木祖村の豊かな自然資源や観光資源を通して村を広くPRし、村のさらなる活性化の一翼を担う、行政主導ではなく民間主導での活動を行う組織が望ましい」との提言を受け、平成21年(2009)4月より1年間、私が役場の嘱託職員となって「木曾川・水の始発駅フォーラム」を推進しながらNPO化の研究を行いました。

この間、平成21年に4つのプロジェクトを3つのプロジェクトに再編するなどの微修正を行い、平成21年10月に、「木曾川・水の始発駅フォーラム」を発展的に解消して、この事業を継承することとして「NPO法人木曾川・水の始発駅」を設立することとなり、設立総会を経て、平成22年(2010)4月に県知事より認可を受け、正式に発足しました。活動の目的・事業内容は定款で次のように定めています。

主として木祖村の、木曾川源流としての豊かな森林環境・自然資源・観光資源などを活用し、①木曾川上下流交流事業の支援、②木曾川に関わる河川環境や森林環境の整備、③自然資源・観光資源を活用した観光案内・体験イベント・教育的活動、④風土の特徴を活かした食に関する商品開発・販売などの事業を行い、地域の活性化を図り、魅力ある地域の創造と地域の利益の増進に寄与する。

NPO化し、活動の主体が<官から民>となったわけですが、このことによる特徴は、①機動性(小さな組織でフットワーク良く迅速に活動できる)、②継続性(ある一定の事案に関して長い目で活動できる)、③専門性(ある一定の事案に関して専門的な目で活動できる・ある一定の事業に関して横断的に幅広く対応できる)などがあげられます。

平成28年度は「NPO法人 木曾川・水の始発駅」を設立してから7年目となりますが、設立以降、関係各位のご理解とご協力をいただき、また各団体等より助成金をいただきながら、独自の企画、村からの委託事業などを行ってまいりました。この結果、他のダム関係者や自治体、大学の調査研究等の取材を受けるようになったり、日本河川協会や長野県河川協会等から表彰されるなど、一定の評価をいただくまでになってまいりました。

これからも、味噌川ダム管理所、木祖村等関係各位のご理解とご協力をいただき、活動の目的を達成するために活動を推進してまいりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

発行〔平成28年3月〕

NPO法人 木曽川・水の始発駅

長野県木曽郡木祖村藪原1011

電話 0264-36-2772

独立行政法人 水資源機構 味噌川ダム管理所

長野県木曽郡木祖村小木曽2058-22

電話 0264-36-3111